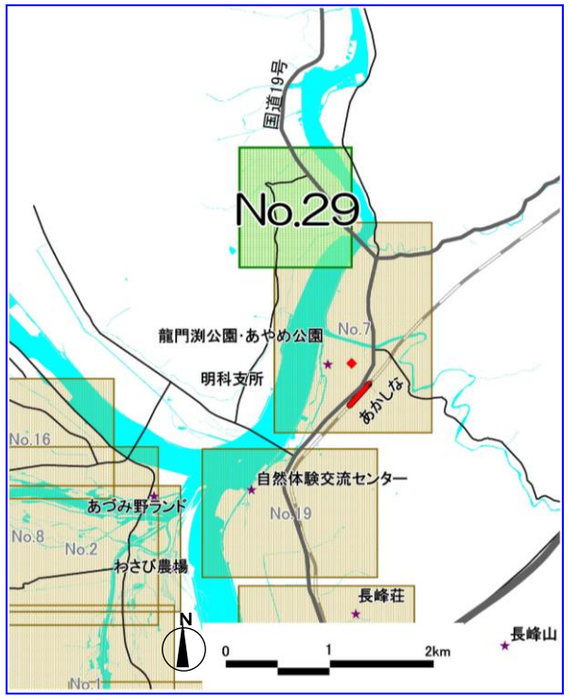
安曇野の原風景を巡る
ふるさとウォッチングマップ

No.29
明科荻原･塩川原地区

-五ヶ用水に支えられた集落を訪ねて-

中山山地の東側、高瀬川と合流した犀川が、生坂へ向かって流れ下りながら形成した左岸の段丘に広がる七貴地区。七貴村の名の起こりは、それまでの七ヶ村の合併に由来します。押野山の裾野を五ヶ用水が流下し、これを水源として水田が帯状に広がっています。稲作が主体の地域ですが、以前は養蚕地帯でもありました。段丘上の集落を支えた五ヶ用水沿いに集落をめぐり、往時のくらしに思いを馳せてみませんか。

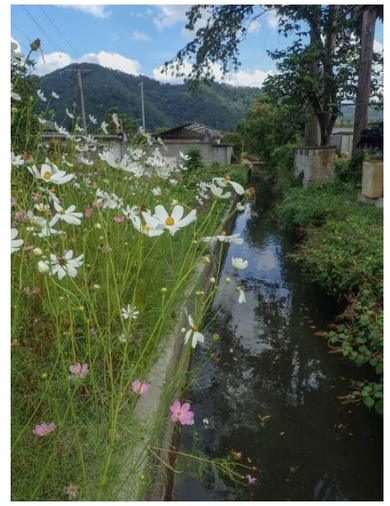


NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団
安曇野案内人倶楽部
※本マップは下記のサイトからダウンロード可能です
http://azumino-sanpo.info/

◆コースタイム　※時間は歩速3㎞/時としての目安です（休憩含まず）

スタート 交流センター→約0.3㎞＊6分→蜂ヶ沢遠望→約0.6㎞＊12分→松葉沢水路橋→約0.5㎞＊10分→五ケ用水改修工事記念碑→約0.5㎞＊10分→高根神社と地蔵堂→約0.2㎞＊4分→塩川原天狗社と屋敷群→約1.4㎞＊28分→荻原神社→約0.3㎞＊6分→荻原神社→約0.2㎞＊4分→交流センター ゴール　【合計】約4.0㎞：1時間20分

(a)交流センター
高札場と郷倉跡の標柱が残る


(b)五ヶ用水
この地域の稲作を支える用水

(e)荻原神社　おふね
秋（10月）の祭りの際に一帯を曳行

(d)高根神社近くの石造物
自然石の道祖神と正月飾りのやす

(c)伊勢宮余水吐
余剰の水を放流するための設備

【注】マップ内の情報はふるさとウォッチングを開催した2019年10月６日現在の内容です。

①蜂ヶ沢遠望

ここからみえる蜂ヶ沢は、古くは松本藩郡役所が底樋の工事をしたとの明記がある普通の沢でした。

しかし、地震での崩壊、流出しやすい土質であることも関与し、豪雨時等の土砂流出で川底が上がるたびに堤防を高くしていったため、県下でも類をみない天井沢※となりました。

※沢の底が堤防に囲まれた宅地の地盤よりも高くなっている沢のことをいいます

蜂ヶ沢

蜂ヶ沢遠望

②松葉沢水路橋

五ケ用水は押野・塩川原・荻原・中村・小泉の五ヶ村の生命線とも言える組合用水で、小泉村の庄屋牛越茂左衛門が私財を投げ打って整備に尽力した水路です。多くの沢を横切る必要があったため整備は難航しましたが、水路橋で結び、現在は総延長約４里(12km)、100町歩の水田を灌漑する水路となっています。

松葉沢水路橋

③五ケ用水改修工事記念碑

五ヶ用水は昭和42年(1967)秋から45年(1970)3月にかけて延べ8669m、総工事費1億1千万円をかけて完成。経費は国50%、県20%、町6%、地元24%(融資)によるものでした。江戸時代から五ヶ割と称す用水規定があり、改修費は下流ほど負担の重くなるならわしがありましたが、この事業では反別割りとされ、従来から大きく変化しました。

五ケ用水改修工事記念碑

④高根神社と地蔵堂

神社には大国主命の御子、大和国葛城村県社高鴨阿治須岐高彦根神社が祭神として祭られています。古事記・日本書紀に出てくる農耕開拓の神として知られています。昔は古城山(現荻原の城峯)にありましたが、慶応元年(1648) に現在地へ移転勧請して、高根大権現としたという記録が残っています。

高根神社と地蔵堂

⑤塩川原天狗社と屋敷群

塩川原地区は、高瀬川・犀川の段丘に位置し、北面に大穴山の山地を配して南側に傾斜しています。三川合流地点付近には南西風に対するかのような欅の大木が列をなして生育している所があります。昔は養蚕が主で農家は活況を呈したといわれています。

【天狗社欅：市天然記念物】

塩川原天狗社と屋敷群

⑥荻原神社

諏訪神社より勧請。昭和21年(1946)に合社殿を新築し、秋葉、妙義、金比羅、戸隠、山の神、愛宕の各神社を合社し現在に至ります。例大祭は別名「ローソク祭り」とも呼ばれ、柴船と人形飾りの規模と豪華さは近郷随一で、全長17m・高さ約6.5mでかつては20mを越えていたといわれます。

荻原神社

⑦ 荻原城

尾根の東端、標高624m付近に主郭が34×20m規模で残っています。付近には城、城平、城日陰、城平日向、こやば、内堀、他の地名が残っています。信府統記には「城主知レズ」とありますが、伝承では天文21年(1552) 、武田晴信に従って刈谷原城を攻略した時、城主太田資忠の首を打ち取った荻原弥右衛門の居城といわれています。

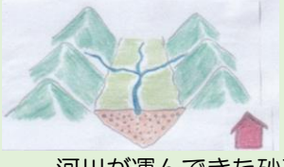
出典：宮坂武男著「図解山城探訪」

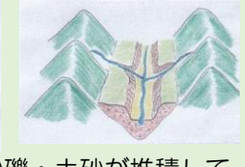
荻原城

河岸段丘の地形

明科付近の河岸段丘の断面図

河岸段丘の形成





河川が運んできた砂礫・土砂が堆積して谷底平野ができ、地盤の隆起により河川に侵食されて、両岸または片側に段丘が形成されます。

断層により河岸段丘が形成される場合もあり、池田から大町にかけての高瀬川左岸がその例です。松本盆地東縁を走る断層により形成されました。

参考文献「明科町史自然編」、「池田町誌自然編」等